

クローズアップ

NGO・NPO

日本語交流室

じょい

～心と心の交流を大切にした
在住外国人支援～

Close Up

NGO・NPO

名称の由来

通称「じょい」は、一九九五年に盛岡市の企画事業「異文化理解講座」の受講生が「自分たちも何らかの形で異文化交流に協力したい」と立ち上げた「日本語を母語としない人たちへのごとばと生活への支援」「何でも相談室」が始まりである。この精神を引き継ぎ、一九九八年四月には名称を現在の『日本語交流室「じょい」』に改め、基本的には日本語の指導を主に活動を行っている。活動を開始してから今年で通算八年になる。

「じょい」という名称は、盛岡では古くから家族が集う「居間」のことを「常居(じょい)」といい、この地域に住む人たちに慣れ親しまれた言葉から、そして、活動目的の一つでもある「日本語を母語としない人たちへの日常生活支援」において、私たちの活動の場「日本語教室」へ気軽に足を運び日本語を学ぶ傍ら、その学びの場を日ごろの煩雑かつ雑多な事柄から開放された「心安らぐ場、交流の場」としてほしいとの願いから、「常居」と英語の「Enjoy」「Joining」を掛けて、ひらがなで「じょい」になった。

活動目的

岩手県内に在住する日本語を母語としない人たちへの日本語の指導とともに、「心」と「心」の交流を大切にしつつ生活面・精神面への支援も目的としており、官公庁への諸手続きや買い物など、身近な困りごとへの手伝いなど

も行っている。また、地域との融和と会員相互の親睦についても積極的に推進している。

活動内容

1. 日本語指導

毎週火曜日の午前10時30分から午後4時まで、次の三つのカリキュラムを実施している。

(1) ファミリー(マザーズ)クラス：乳児、幼児を持つ母親を対象とした日本語の指導。基本的にはプライベートレッスンの形をとっており、スタッフ五名で指導に当たっている。現在、オーストラリア、バングラデシユ、インドネシア、台湾、中国、アゼルバイジャンからの八名が受講している。母親たちが受講している間、子どもたちの世話を、託児ボランティアグループ「野の花会」の皆さんにお願いしている。

(2) 漢字コース：漢字に興味を持つ留学生や、幼稚園・小学校からの連絡事項や「コミュニケーション」の回覧物の漢字が分からず苦労している外国人からの強い要望により、今年度から開設した。ひらがな・カタカナの基本練習から学ぶコースと、本格的な漢字学習を行う二



↑日本語教室の授業風景。受講者は現在78名、20カ国以上の外国人が学んでいる

日本語交流室「じょい」

〒020-0172 岩手県滝沢村鶴飼字狐洞1-264 (滝沢ニュータウン3-3-2)

TEL 019-687-1538 FAX 019-687-6312 E-mail:kayokooh@poplar.ocn.ne.jp

コースがある。現在二八名の外国人が受講しているが、大変評判が良いことから、今後受講者が増えるものと予想している。

(3)日本語学習・漢字コースの受講者を含め、日本語学習を希望する一般外国人を対象とした日本語教室。レッスンの途中には三〇分のコーヒータイトム及び交流タイムを入れるなど、楽しい雰囲気をつくれるよう工夫している。受講希望者は、プレースメントテストの結果によって、①入会コース(プライベートレッスン)、②基礎コース(基本的にプライベートレッスン)、③中級コース(グループレッスン)に分かれて学習している。現在、七八名の受講者に対して、三二名のスタッフで対応している。受講者は、留学生、主婦、各種研修生、語学教室の講師等で、その国籍は、中国、韓国、台湾、フィリピン、タイ、マレーシア、ネパール、インドネシア、バングラディッシュ、ロシア、エジプト、スーダン、アメリカ、エクアドル、メキシコ、コロンビア、ペルー、アルゼンチン、ブラジル、デンマーク、オーストラリア等、多岐にわたる。

2. 日本語講師の派遣

これは、民間団体等からの日本語指導の要請に応じて講師を派遣するもので、短期・長期いずれの場合にも対応している。これまでの主な講師派遣実績は次のとおりである。
 (1)ドイツ・フランスからの留学生(大学生二五〜二〇名)の三カ月間の日本語研修
 (2)岩手ロータリークラブ交換留学生(九名)への日本語指導

3. 日本文化の紹介

四月下旬の桜の咲くころ、活動日を利用して「お花見」を実施している。近くの庭園を散策しながら、その途中にある広場では、お花見についての説明や写真撮影、花見団子を食べながらゲーム等を行っており、参加者同士の交流を深める場にもなっている。また、三月三日の「ひな祭り」のころには、ひな壇を飾って記念撮影をしたり、琴の演奏を行うなど、日本文化に親しむ機会を提供している。このほか、「節分の時の豆まき体験をはじめ、「端午の節句」「七夕」の時期にも、それらを紹介・体験する機会を提供している。



↑3月3日の「ひな祭り行事」にて。教室の一角に飾ったひな壇の前で記念撮影

4. 協賛事業

「じょい」では、盛岡市国際交流協会が企画する事業への協力も行っている。最近では、盛岡都心循環バス「でんでんむし」を利用した外国人のための市内観光ミニツアーに協賛した。参加した外国人には大変好評であった。
 5. 「じょい」フェスティバル
 毎年二月上旬の活動日(ラマダン)迄が終

わった後)に、一年の締めくくりの行事ともいえる『「じょい」フェスティバル』を盛大に開催している。このイベントは、「じょい」のスタッフと日本語教室の受講者が協力して企画しており、外国人による日本語劇、ファミリア(マザーズ)クラスの親子による舞台発表、民族舞踊や歌の披露、景品付ゲーム大会などを行っている。フェスティバルへは、岩手県文化国際課、岩手県国際交流プラザ、盛岡市国際交流協会、岩手大留学学生課、盛岡市公民館、野の花会の皆さんを招待しており、楽しい交流の場であると同時に、外国人たちにとっては、思い出づくりの良い機会にもなっている。

(注)ラマダン：イスラム教の断食月間

おわりに

私たちは、この八年間、日本語ボランティアとしてさまざまな国の人たちと接してきた。「日本語を教える」といつつ、その実、さまざまな異文化について勉強をさせてもらったのは、こちらの側かもしれないと感じている。現在、われわれが抱える最大の悩みは、「会場の確保」である。現在、公民館から使用許可を得ているのは二部屋のみであり、九〇名ものスタッフと受講者が一度に集まると、そのスペースは十分とはいえない状況にある。本来、在住外国人の日常生活面のフォローは行政の業務と考えており、行政には、もう少しボランティアの側に立ったものの見方、考え方をしていただけてを切に願っている。

クローズアップ

NGO・NPO

ソフィア倶楽部

～多文化共生・

みんなにやさしいまちづくり～

Close Up

NGO・NPO

ソフィア倶楽部の歩み

ソフィア倶楽部は、一九九六年九月、ボランティア活動をしていた有志が集まり、留学生の生活支援を目的として発足したNPOで、松山市を中心とした愛媛県内で活動している。

当初は、生活用品の提供や住居探しのサポートなどを行っていたが、活動するにつれて、彼らの家族に対してのケアの必要性を感じるようになった。特に、留学生として日本に来た男性と一緒に来日した奥さんたちは、子どもたちが学校や保育園で急速に地域に溶け込んでいくのに比べて、言葉の問題などが原因で孤立していくことが多かった。そこで、生活支援に加えて、言葉や心の壁を取り除くためのサポートを行うことにした。国際交流という枠にとらわれずに、地域の中で同じ仲間として集い合えるきっかけづくりを始めたのである。

現在は、サポートされる立場であった留学生たちも、ボランティア・スタッフとして、在住外国人の生活相談などに協力してくれるようになった。留学生を含む在住外国人や日本人スタッフが一緒になって、ほかの分野のNPOと連携しながら「まちづくり」に取り組んでいる。

活動状況

・世界の料理教室

これは、孤立しがちな奥さんたちが、得意

な料理を活かして交流する機会になればと企画したものである。料理教室を始めて七年、二

四力国の料理を紹介してきた。「今までテレビ

で日本語の勉強

をしていたが、こんなに多くの人と話すことができたのは初めて」等々、参加した奥さんたちの喜びの声が励みになっている。日本人の参加者にも「多様な食文化に触れることができる」と好評だ。

・在住外国人支援「多言語生活相談」

初めは、「ホットライン」として時間帯を決めて電話で相談受付けをしていたが、その時間帯にボランティア留学生を拘束することが難しくなったことや、告知方法が限られていたために留学生以外の在住外国人にはあまり活用されなかったことなどから、今年度より受け付け方法を変更した。まず、ファックスによる受け付け。これは、相談に対して即答はできないが、留学生のネットワークを使ってほとんどの言語で対応できるようにしている。もう一つは、Eメールによる受け付け。日本語・英語・中国語・ハングルでの対応が可能である。

また、外国人の相談窓口が愛媛県の国際交流センターに設置されており、各専門機関と連携しながら運営されている。ソフィア倶楽



↑世界の料理教室。カレーの作り方を指導するインドからの留学生ムニさん

ソフィア倶楽部

〒790-0004 愛媛県松山市大街道3-6-2 岡崎第5ビル201 TEL&FAX 089-934-5296 火～金 10:00～17:00

URL: <http://www.d3.dion.ne.jp/icoro> E-mail: icoro@d3.dion.ne.jp

↑「まつやま国際見本市2001」での民族衣装のファッションショー。10カ国、16人の留学生が参加

た。そこで私たちは、プログラムについて提案したり、事前打ち合わせの必要性などを学校側に伝えていた。まだまだプログラムの協働

部としては、心のケアや地域の情報提供など、民間レベルでできるサポートを行っている。
・国際理解教育
昨年、二〇カ国の小学校の教科書を集めた「世界の教科書展」とフォーラムを開催した。展示した教科書はそれぞれの国で実際に子どもたちが使っていたもので、「紙の質や印刷の違いに驚いた」、「落書きされたものや先生のチエックマークの跡などから、世界を身近に感じることができた」などの感想が寄せられた。収集した教科書は、将来、学校や地域の生涯学習などで活用してもらおうと、事務局で保管している。

二年くらい前から、学校から「国際理解教育の授業に留学生を講師として派遣してほしい」という要望が増えてきた。初めは、ただ「何力国、何人」という希望が伝えられるだけだったため、当日は、大勢の生徒の前で、留学生たちが壇上に立つて順番に自己紹介するだけという内容になってしまっ

は十分ではないが、学校側も少しずつ私たちのアイデアや提案を取り入れてくれるようになってきている。一方的な提供ではなく、さまざまな学習資源を紹介しながら、学校や地域の中でのより良いプログラムづくりのために活動している。

・その他の交流事業

現在、留学生や在住外国人の協力で、二四カ国のネットワークができています。そのため、国際理解教育の授業だけでなく、ほかのイベントへの参加も依頼されるようになった。「まつやま国際見本市2001」での民族衣装のファッションショーや、昨年開催された松山城の公式イベント「地球屋台村」などへの参加協力を行った。

今年度は、愛媛県の施設「えひめこどももの城」で年間を通して開催されるイベント「世界をまるかじり」のプログラムづくりに携わっている。この事業は、親子が「食」を通じて多文化を理解することを目的としており、食卓を囲んで「コミュニケーションを楽しみながら、農業・宗教・経済・歴史などのさまざまな観点から世界に触れる」というものである。自治体主催のイベントだけでなく、地域で開催される子供会・婦人会などの交流会や生涯学習の中でも、この「世界の食文化体験」を取り入れることを呼びかけている。それぞれのイベントを一過性の事業として行うのではなく、地域の市民が多様性を受け入れ、共に生きていくことについて考えるきっかけづくりへとつなげている。

地方自治体に望むこと

活動していく上で、県や市の国際交流センターとのパートナーシップは非常に重要である。NPOとしては、その都度活動状況など情報提供を行い、お互いに協力し合える関係づくりをしていきたいと考えている。学校や地域とNPOがつながっていくことを考えると、自治体がコーディネーターとして果たすべき役割は大きい。自治体には、NGO・NPOについての問い合わせに対して単にリストから紹介するだけでなく、NGO・NPOが今どういった活動を行っているのかという情報が行き交う環境づくりをお願いしたい。

これからの活動

相談事業の中で集めた情報は、外国人だけでなく日本人にも必要なものが多かった。そこで、ソフィア倶楽部が中心となって、同じ地域で暮らす者として情報を平等に共有できる窓口「Ethnic NPO Association (通称「E.N.A.」)」を開設した。NPOのような活動をしている団体、一般市民、在住外国人など、みんなが気軽に訪ねてきて情報交換ができるサロンにもなっている。日常の身近な集まりの中からそれぞれのニーズを拾うことができればと考えて設置した。このサロンを活用しながら、これからも、留学生や在住外国人が地域の中に自然に入っていける「多文化共生・みんなにやさしいまちづくり」を目指して活動していきたい。